

大黒柱の高橋翔聖を中心に しらかし青山が攻撃力で成田を一蹴

男子決勝で顔を合わせたのは攻撃パターンが多岐で、171センチと長身のセンター高橋翔聖を擁するしらかし青山キッズ（利府町）と、確かな技術を武器に勝ち上がったきた成田ピュアスピリッツ（富谷市）。

接戦が予想されたが序盤、しらかし青山が高橋の高さを生かした攻撃を繰り返す中、それに有効な対抗策を打ち出せない成田。第1クォーター、しらかし青山16点に対し、成田は5点、メンバーの入れ替わった第2クォーターもしらかし青山18点に対し、成田2点と前半を終えて誰もが驚く34-7と、27点のアドバンテージをしらかし青山が持つ。それでも、成田は新井慶太主

将を中心に打開を図ろうと積極的にボールを回していく。すると、大差がついたこともあるが、しらかし青山の動きが若干スローダウン。成田の攻撃が徐々に形になり、新井主将のドライブなどで得点を重ねる。第3クォーターはしらかし青山リードながら14-12と拮抗した形となり成田が意地を見せたが、第4クォーターは6-16と差をつけられた。結果は64-25。高橋だけでなく、チームワークも光ったしらかし青山がうれしい初優勝を果たした。

しらかし青山の阿部真牙主将は「いい試合の入りができた。狙って実現できた優勝はともうれしい。これを自信に今後につなげていきたい」と笑顔。敗れた成田の新井主将は「相手のセンターがとにかく強かった。もっと練習しないと県でトップに立てないと痛感した」と振り返った。なお、3位決定戦は第4クォーターで一気に逆転したおきのミニバスケットボールスポーツ少年団（仙台市若林区）が寺岡男子ミニバススポーツ少年団（仙台市泉区）を52-46で下した。寺岡は第3クォーターまで45-37とリードしていたが、第4クォーターで1点しか取れず、15点を奪われ力尽きた。

男子



ゴール下で圧倒的な強さを見せたしらかし青山の高橋翔聖

県の頂点を目指す

新チーム最初の戦い

新チームの県内での実力を試す、まず初めの機会となる「宮城県ミニバスケットボール新人大会」。1次、2次予選を勝ち上がった男女各16チームが決勝トーナメントを戦った。2月10日、名取市体育館で行われた男女決勝の戦いをレポートする。

撮影・文◎平川元

女子



スコアラーとして八本松の逆転勝利に貢献した高橋

女子は、本命不在とも言える状況の中、同じ仙台市太白区で活動する八本松ミニバスケットボールスポーツ少年団と長町ミニバスケットボール同好会が決勝で激突。どちらもディフェンスをベースにさまざまな攻撃パターンを持つ、特徴の似たチーム同士で雌雄を決することとなった。

試合は前半、完全な長町のペース。前半を終えたところで、25-16と長町が9点リードする。しかし、後半に入ると徐々に八本松が長町を押し込んでいく。八本松は得点こそ伸びなかったものの、粘り強いディフェンスが奏功し、試合展開の印象よりは点差

は離れず。第3クォーターは10-10の互角だったものの、八本松に勢いを感じる。第4クォーターは立ち上がりから八本松が主導権を握り、鈴木悠乃主将と高橋優和を中心に攻撃が爆発。終盤で追い付くと、残り14秒といったところでついに初めてリード。すると、そのまま試合はタイムアップとなり、45-43で八本松が初の栄冠に輝いた。鈴木主将は「相手のディフェンスが強く序盤、ペースがつかめなかったが、みんなでボールを回すことで徐々にチャンスが生まれた。リードされる時間が長かったけどみんなが一丸となつてチームのために戦ってくれた。優勝はうれしい」と満面の笑み。

敗れた長町の小林瑞季主将は「第4クォーターに入って痛いミスが続いたのが敗因。八本松さんは同じ太白区のチーム。八本松さんを上回る練習を重ね、そして今度は勝つて、私たちがトップに立ちたい」とこれからに思いを向けた。3位決定戦は東仙台ミニバスケットボールクラブ（仙台市宮城野区）とミニバスケット古川ウインズ（大崎市）が対決し、48-42で東仙台が制した。一進一退の展開も第4クォーターで一気に突き放し勝利を収めた。

粘り強さを随所に見せた八本松が 最終盤で長町を逆転し初優勝

女子決勝

八本松ミニバスケットボールスポーツ少年団 **45-43** 長町ミニバスケットボール同好会

切れ味鋭いドライブを見せた八本松の佐藤葉乃



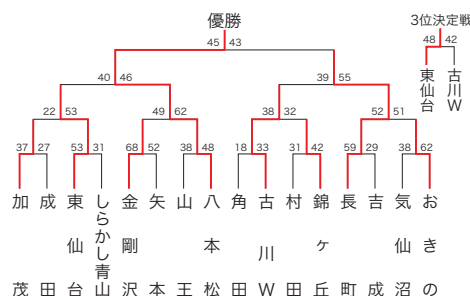
男子決勝

しらかし青山キッズ **64-25** 成田ピュアスピリッツ

4年生ながら高い技術を見せたしらかし青山の杉本蒼太



優勝した八本松ミニバスケットボールスポーツ少年団



優勝したしらかし青山キッズ

